



「敬老の日」にちなんで

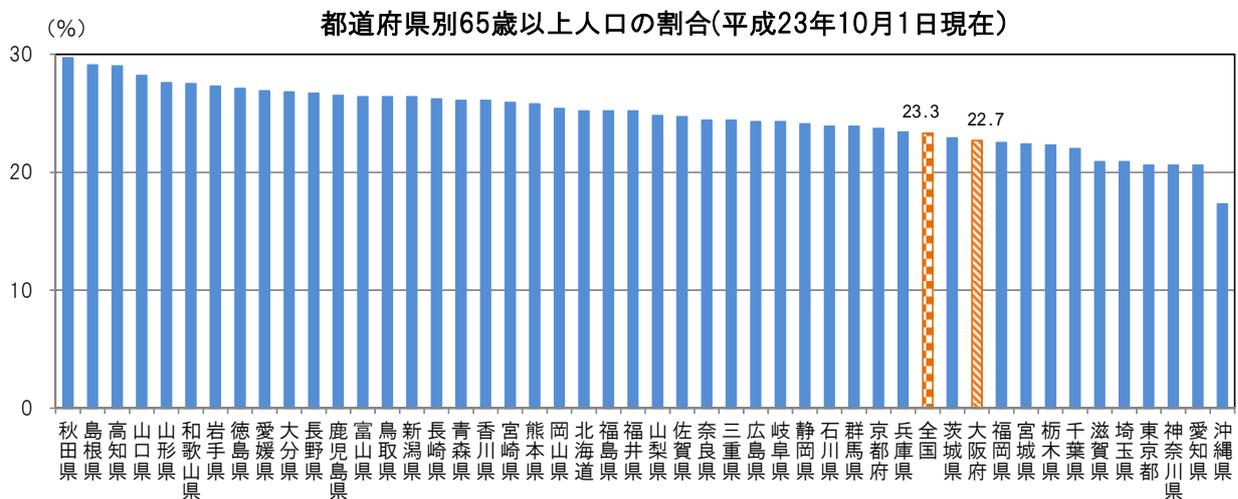
大阪府総務部統計課 情報・分析グループ

敬老の日「9月17日」にちなみ、高齢者に関する統計をいくつか集めて、「統計からみた大阪の高齢者」をとりまとめました。(この統計トピックスでは、65歳以上を「高齢者」としています。)

1 65歳以上人口の割合 およそ2割が高齢者

総人口に占める65歳以上人口の割合を都道府県別にみると、秋田県が29.7%と最も高く、次いで島根県が29.1%、高知県が29.0%などとなっています。一方、沖縄県が17.3%と最も低く、次いで東京都、神奈川県及び愛知県が20.6%となっています。

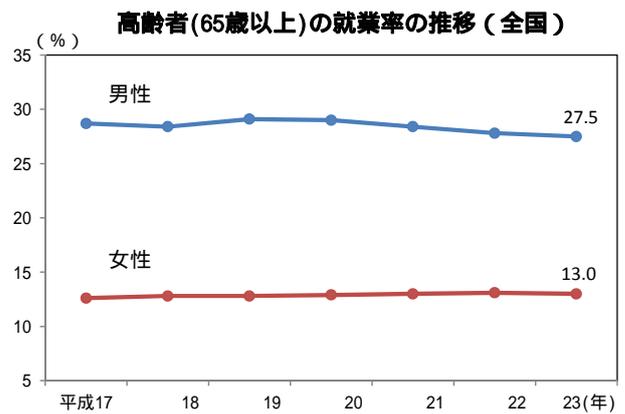
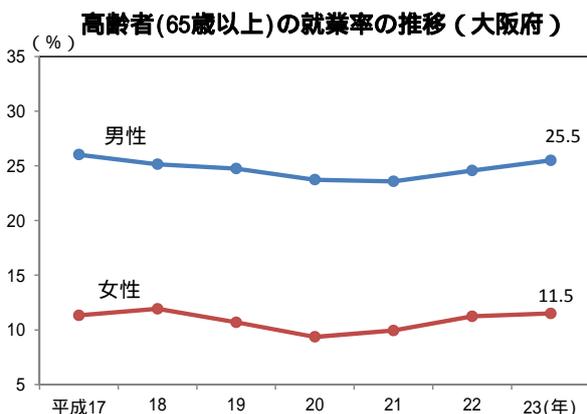
大阪府は22.7%で、全国平均の23.3%より若干低くなっています。



2 就業率の推移 ゆるやかに上昇

大阪府の65歳以上の就業率(人口に占める「就業者」の割合)は、男性が25.5%、女性が11.5%となっており、男女ともに平成20年頃から緩やかな上昇傾向がみられます。

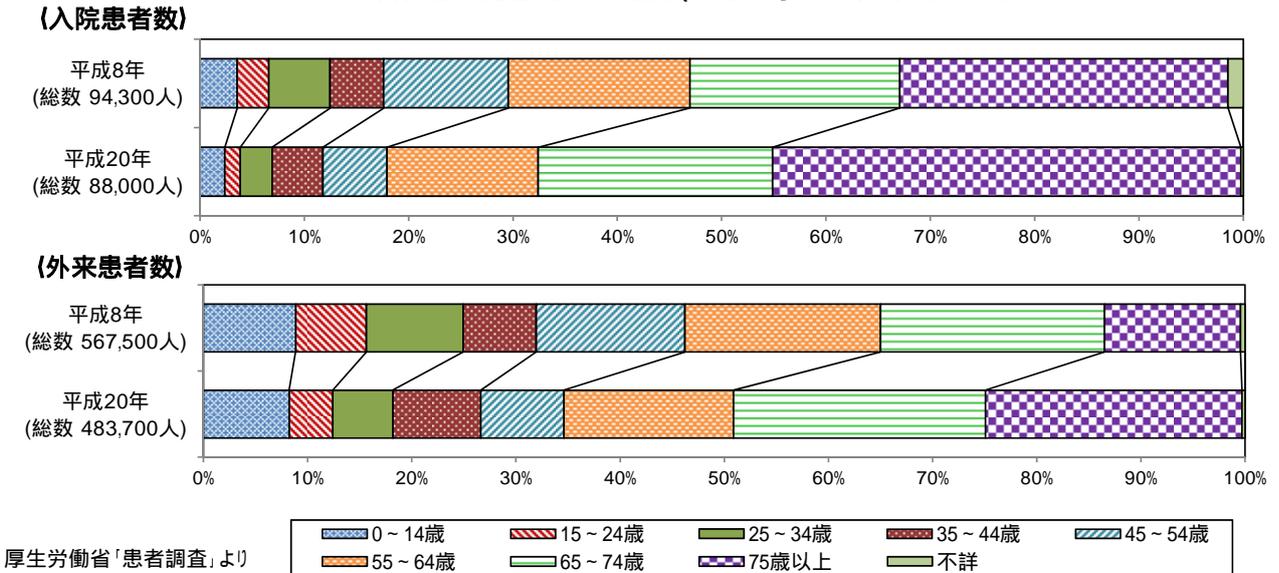
全国では、男性はわずかずつ減少しており、女性はおおむね横ばいとなっています。



3 推計患者数の割合 入院患者の約7割が高齢者

平成20年患者調査によると、大阪府民の「入院」患者総数は8万8000人で、平成8年の9万4300人と比べると6300人減少しました。また、「外来」患者総数は48万3700人で、平成8年の56万7500人から8万3800人減少しています。これを年齢別に見てみると、65歳以上患者数は「入院」が5万9400人で、全体に占める高齢者の割合は、68%となっており、平成8年の調査(52%)に比べ16ポイント増加しています。「外来」は23万6100人で、高齢者の割合は平成8年より14ポイント増えて49%となっており、約半数が高齢者となっています。入院、外来患者ともに特に75歳以上の高齢者が増加しています。

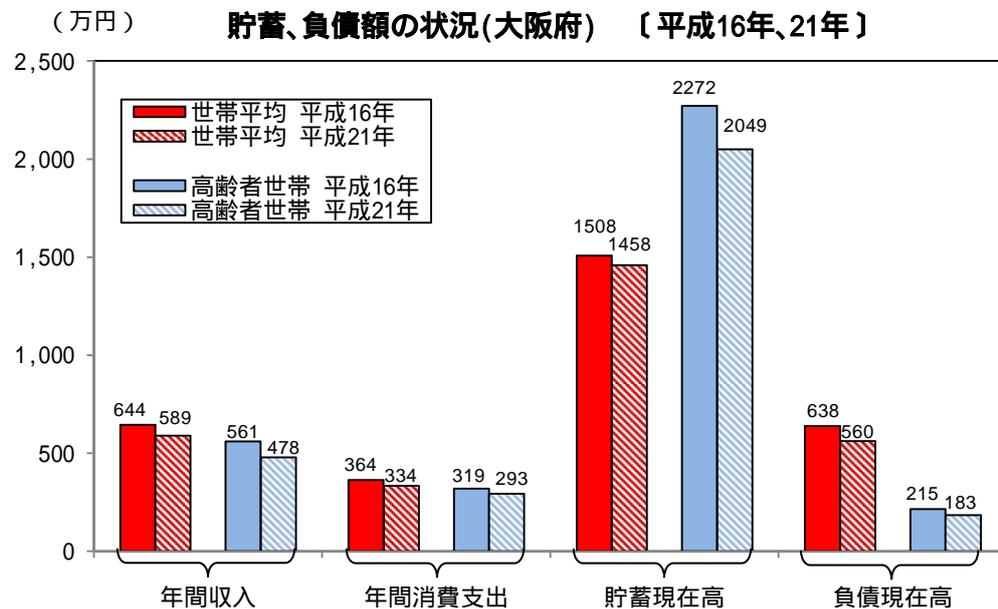
年齢階級別患者数の割合(大阪府)【平成8年、20年】



4 高齢者世帯の家計 年間収入の減少率は世帯平均の1.7倍

平成21年の全国消費実態調査によると、大阪府の高齢者世帯(二人以上の世帯のうち世帯主の年齢が65歳以上の世帯平均)の家計の状況は、平成16年に比べて、年間収入は-14.8%(「二人以上の世帯平均」は-8.5%)、年間消費支出は-8.2%(同-8.2%)、貯蓄現在高は-9.8%(同-3.3%)、負債現在高は-14.9%(同-12.2%)となっています。年間収入や貯蓄現在高の減少率が「二人以上の世帯平均」と比べて高く、収入の減少を預貯金などで補っている様子が見えます。

二人以上の世帯平均と高齢者世帯平均の収入、支出、貯蓄、負債額の状況(大阪府)【平成16年、21年】



総務省「全国消費実態調査」より

年間消費支出は 1か月間の消費支出×12で算出